

6月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

沖縄群島

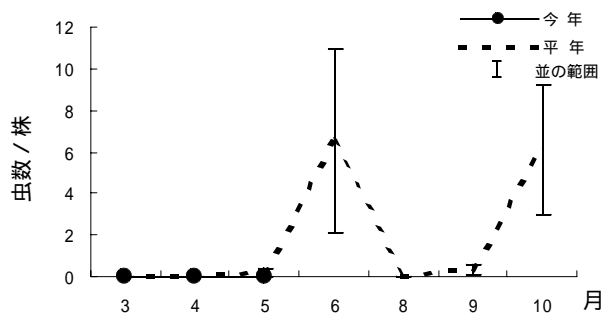
1 水稻(1期作)

(1) 斑点米カメムシ類

発生程度: やや少

予報の根拠

5月下旬の調査の結果、株当たり虫数は0.004頭(前年0.01頭、平年0.2頭)と平年より少なかった。



水稻におけるカメムシ類の発生推移

防除上注意すべき事項

- 出穂期頃から発生しやすいので、早期発見、早期防除に努める。
- 飛来源となる、休耕田や畦畔等を含めて一斉防除を行う。

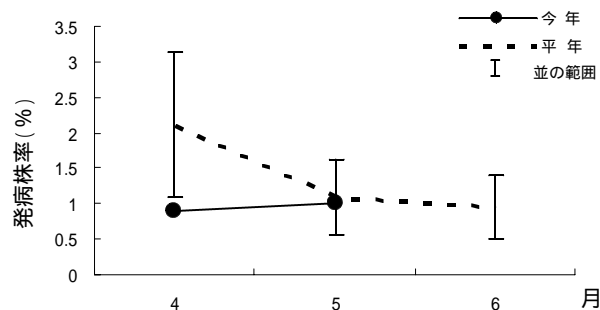
2 さとうきび

(1) 黒穂病

発生程度: 並

予報の根拠

- 5月の調査の結果、発病株率は1.0%(前年1.1%、平年1.1%)と平年並であった。
- 農林9号の株出ほ場などで一部多発生が見られた。



さとうきびにおける黒穂病の発生推移

防除上注意すべき事項

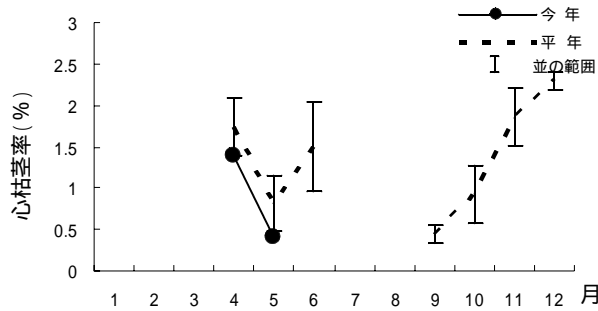
平成16年度沖縄県病害虫発生予察技術情報第1号(平成16年4月1日付け)参照。

(2) メイチュウ類

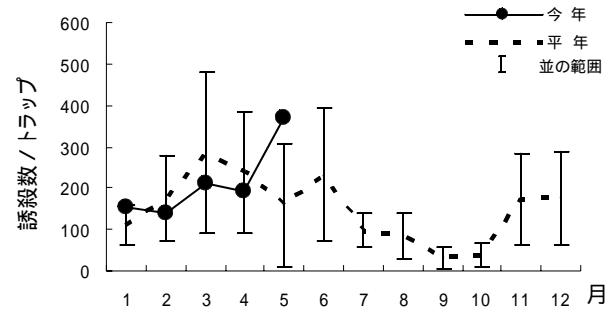
発生程度： 並

予報の根拠

- a 5月の新植圃場での芯枯茎率は0.4%（前年0.2%、平年0.8%）と平年よりやや少なかった。
- b 5月のカンシャノシンクイハマキ性フェロモンによるトラップ当たり誘殺数は370頭（前年432頭、平年157頭）と平年よりやや多かった。



メイチュウ類による心枯茎率の推移



カンシャノシンクイハマキの発生推移

防除上注意すべき事項

- a 加害による心枯を防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点を置く。
- b 植え付け時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤を選定し施用する。

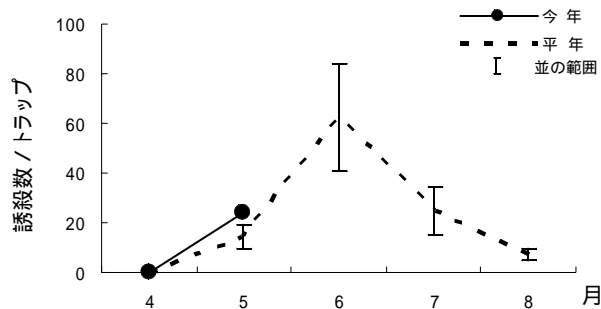
(3) アオドウガネ

予報の内容

発生程度： やや多

予報の根拠

- 5月の予察灯での誘殺虫数は23.8頭（前年19頭、平年14.4頭）と平年よりやや多かった。



アオドウガネの発生推移

防除上注意すべき事項

- a 5～8月は成虫の発生時期に当たるので、誘殺灯の管理並びに誘殺虫の回収処分を徹底する。
- b 7～8月は幼虫の防除適期（1～2齢期）に当たるので、常発地域では時期を逸しないようにする。

オキナワカンシャクシコメツキ幼虫の防除対策について

- a 幼虫防除は立毛時（若齢幼虫期）の薬剤防除に努める。
- b 立毛時の防除は5月下旬～6月下旬に耕種的防除（根切り、培土、中耕）と組み合わせた薬剤防除を行う。
- c 乳剤のかん注処理を実施する場合には、使用薬剤量が極めて多いため、地下水などの汚染が生じないように十分配慮する。

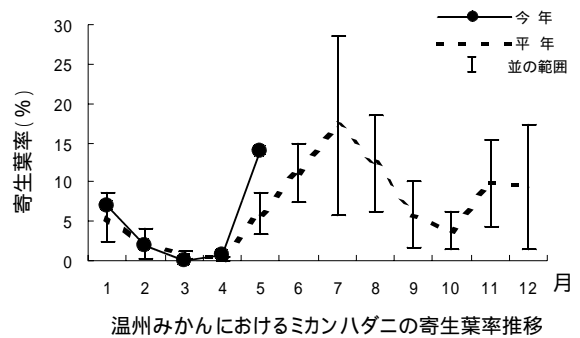
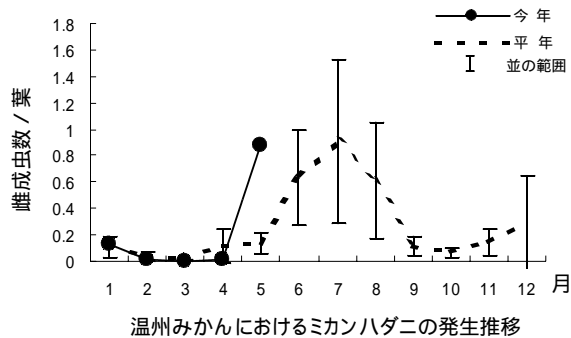
3 温州みかん

(1)ミカンハダニ

発生程度：多

予報の根拠

- a 5月下旬の調査の結果、葉当たり雌成虫数は0.88頭(前年0.02頭、平年0.13頭)と多く、寄生葉率も14%(前年2%、平年6%)と平年より高かった。
- b 一部ほ場で多発生が見られた。
- c 気象予報によると、降水量は平年並みか少ない見込み。



防除上注意すべき事項

- a 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一同系統薬剤の連用を避ける。
- b 防除は1葉当たり雌成虫0.5～1.0頭を目安に行う。

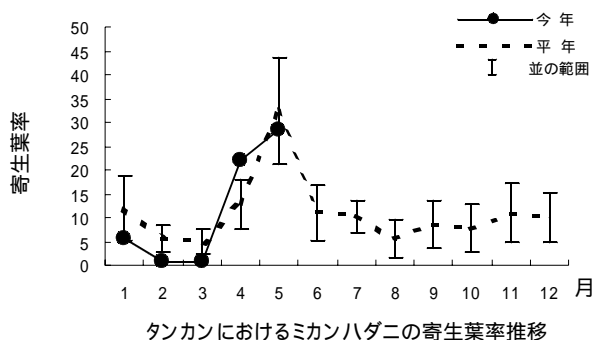
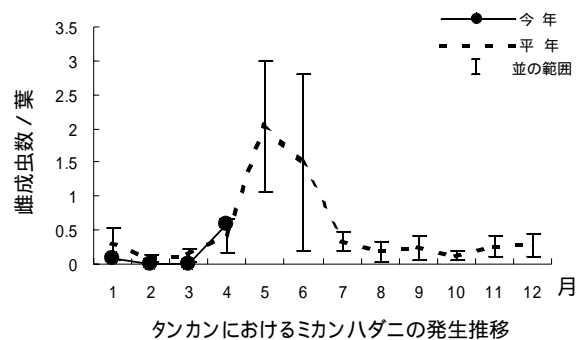
4 タンカン

(1)ミカンハダニ

発生程度：並

予報の根拠

- a 5月下旬の調査の結果、葉当たり雌成虫数はタンカンで1.1頭(前年0.02頭、平年2.04頭)、寄生葉率で28.3%(前年2.0%、平年32.5%)と平年並であった。
- b 一部ほ場で多発生が見られた。
- c 気象予報によると、降水量は平年並みか少ない見込み。



防除上注意すべき事項

温州みかんの項参照

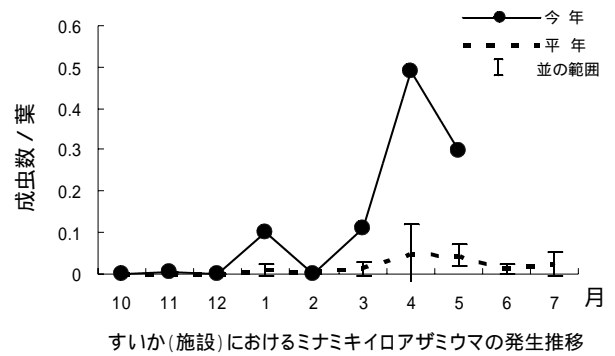
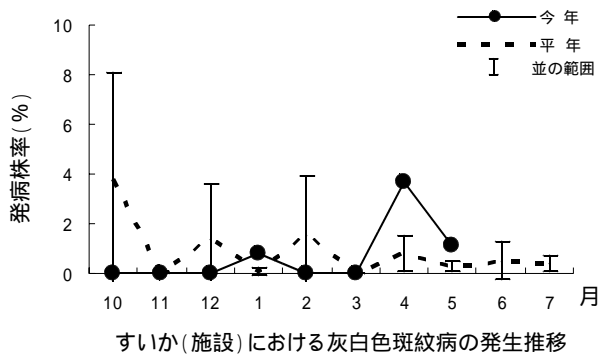
5 すいか(施設)

(1) 灰白色斑紋病

発生程度: 多

予報の根拠

- a 5月下旬の調査の結果、発病株率は1.12%(前年0.83%、平年0.26%)と平年より高かった。
- b ミナキイロアザミウマの葉当たり成虫数は0.3頭(前年0.1頭、平年0.05頭)と平年より多かった。



防除上注意すべき事項

平成16年度病害虫発生予察注意報第1号(平成16年4月30日付け)参照。

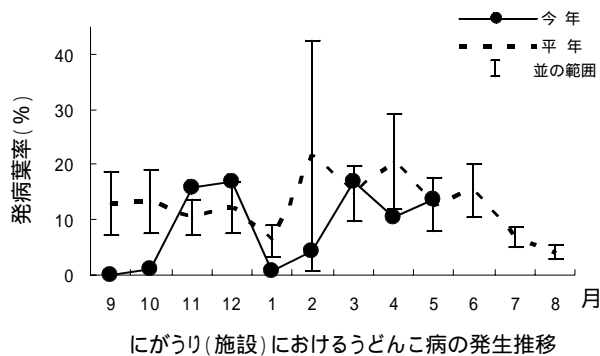
6 にがうり(施設)

(1) うどんこ病

発生程度: 並

予報の根拠

- a 5月下旬の調査の結果、発病葉率13.6%(前年22.2%、平年12.7%)と平年並であった。
- b 本病は乾燥条件下で発生が助長される。気象予報によると降水量は平年並みか少ない見込み。



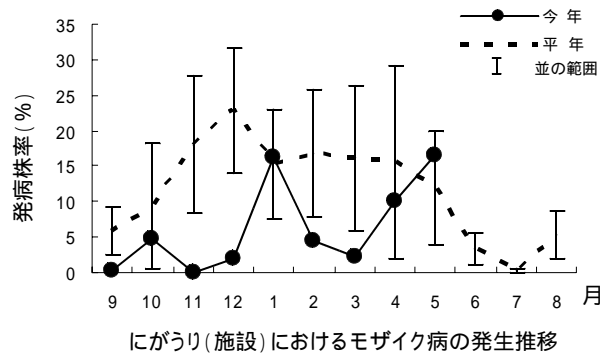
防除上注意すべき事項

平成16年病害虫発生予察技術情報第2号(平成16年4月30日付け)参照。

(2)モザイク病

発生程度： 並
予報の根拠

- 5月下旬の調査の結果、発病株率は16.5%(前年0%、平年11.9%)と平年並みであった。
- 一部ほ場で多発生が見られた。



防除上注意すべき事項

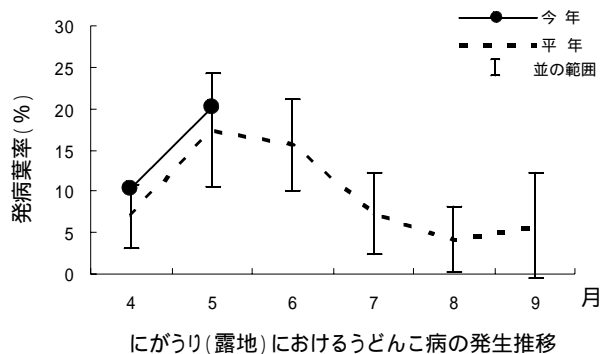
- ほ場周辺の雑草は媒介虫であるアブラムシ類の発生源となるので除草を行う。
- 近紫外線除去フィルム、シルバーポリマルチの利用、および入口、天窓、側窓にはシルバー寒冷紗等を張りアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。
- 果実に奇形が生じて出荷が困難になり被害が大きいため、発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- 本病は汁液伝染するので、やむを得ず発病株を残す場合は、発病株のある棟の収穫管理作業は最後に行い、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

7 ながうり(露地・平張り)

(1)うどんこ病

発生程度： 並
予報の根拠

- 5月下旬の調査の結果、発病葉率20.2%(前年16.2%、平年17.4%)と平年並であった。
- 本病は乾燥条件下で発生が助長される。気象予報によると降水量は平年並みか少ない見込み。



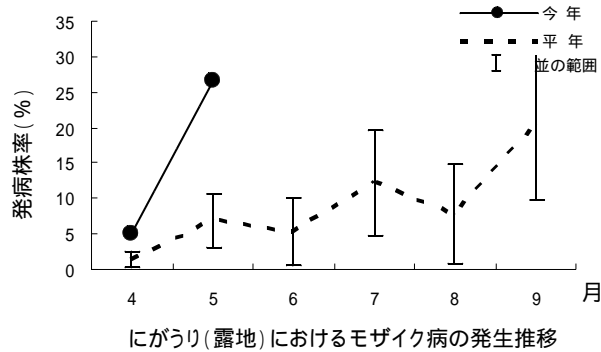
防除上注意すべき事項

平成16年病害虫発生予察技術情報第2号(平成16年4月30日付け)参照。

(2)モザイク病

発生程度： 多
予報の根拠

5月下旬の調査の結果、発病株率は26.5% (前年0.94%、 平年6.92%)と平年より高かった。



防除上注意すべき事項

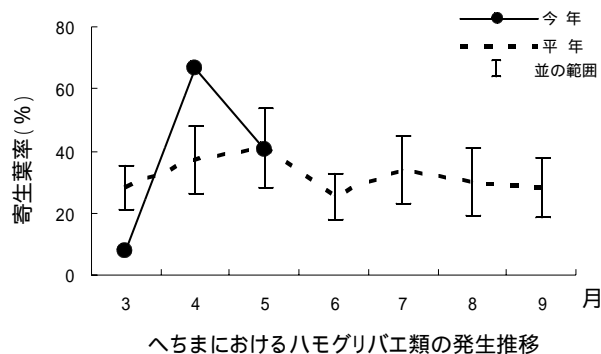
- ほ場周辺の雑草は媒介虫であるアブラムシ類の発生源となるので除草を行う。
- 果実に奇形が生じて出荷が困難になり被害が大きいため、発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- 本病は汁液伝染するので、やむを得ず発病株を残す場合は、発病株の収穫管理作業は最後に行い、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

7 へちま

(1)ハモグリバエ類

発生程度： 並
予報の根拠

- 5月下旬の調査の結果、寄生葉率は40.6% (前年8.4%、 平年37.1%)と平年並であった。
- 寄生株率、発生ほ場率ともに100%であった。



防除上注意すべき事項

- 発生源になる周辺雑草を除去する。
- 早期発見・早期防除に努める。